

○議長 辻本 一夫君

次に1番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

1番、長島です。議長のお許しをいただきましたので、通告に従い質問いたします。

件名1です。海を生かしたまちづくりと、町の将来像についてです。

私はちょうど、10年前、初めて芦屋町を訪れました。遠賀町、ゆめタウン側から北上し、ポートレース芦屋を左手に見ながら、芦屋町に入ってきました。正直に申し上げますと、海の町と聞いて訪れたのですが、海の気配を感じる事が、なかなかできませんでした。この先に本当に海があるのか。そう思いながら役場まで来たことを、今でも覚えております。これは批判ではありません。ここは、当時のよそ者目線。初めて芦屋町に来訪した、一訪問者として当時の率直な意見ということでお許しください。

私はかつて関東に住んでおり、フォトグラファーをしていましたので、仕事ではよく、神奈川県湘南海岸や、千葉県九十九里浜などを訪れておりました。海に行く道中の町を抜けた瞬間に、海へ近づいていく高揚感などをよく感じていました。風の湿度が変わり、建物の色や、明るさが変わってくる。サインゲートなどの、看板の雰囲気が変わる。道路の造り方、また抜け感などが変わる。海が近づいてきたなあと、理屈ではなく、空気を感じる、自然に感じられる設計がされていたように思います。

福岡県でいえば、糸島なども同様ではないでしょうか。海岸線を走る道路、視界が開ける景観。しかし、私たちの町、芦屋町には、糸島や湘南のような海岸線の道路はありませんし、地形条件も違います。町の一番奥の奥に行かなければ、海にたどり着かない地形です。

移住してから10年もたちましたが、いまだにあまり海を感じられるまちづくりになっていないような気がしております。だからこそ、海が見える場所だけで勝負するのではなく、海へたどり着く前に、町の玄関口、幹線道路、町中、住宅地、公共施設などで、ここは海の町であると感じさせる設計が必要なのではないでしょうか。海はあります。存在もしております。しかし、海の町は自然には生まれません。設計しなければ、生まれないと思っております。その問題意識の基、以下質問させていただきます。

本町は玄界灘に面し、潮風とともに、歴史を重ねてきた町です。町長は海を生かしたまちづくりを掲げ、レジャー港の開業もすぐそこです。

しかし現在まで、公共施設の外観や色彩、道路空間の雰囲気、植栽の在り方、サイン計画などが、それぞれ個別に整備されてきた側面はあるものの、海の町としての統一的な空間デザインが、明確に打ち出されてきたかといえ、まだ十分とは言えない気がしております。

今後10年、20年先の芦屋町の姿を描くため、将来的な方向性をそろそろ決める時期なので

令和8年第1回定例会（長島毅議員一般質問）

はないかと考えております。海を生かしたまちづくりを推進し、芦屋町を海の町としていくのであれば、空間デザインの検討などを本格的に開始すべきと考えますが、町の見解を伺います。

要旨1です。そもそも芦屋町が、海の町としていくのか。本町の将来的な方向性について、お聞かせください。総合振興計画などの最上位計画において、海はどのように位置づけられているのかなど、方向性を明確にしなければ、空間設計も始まりませんし、施策も迷うのではないのでしょうか。町の将来的な軸についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

芦屋町として、海を軸にまちづくりを行っていくのかということですが、芦屋町にとって、海は重要な資源と考えております。

しかし町の最上位計画であります、芦屋町総合振興計画等におきましても、海を軸にしたまちづくりを行うということを明示したものはございません。芦屋町といえば、海というイメージを持っておられる方は、町内外でも多くおられると認識しておりますが、芦屋町には古い歴史を持つ、寺社仏閣や文化財も多く、芦屋町を代表する芦屋釜をはじめ、歴史文化も町の重要な資源であることは、御承知のとおりでございます。

このため、海を軸としてまちづくりを進めていくということではなく、海もまちづくりの重要な軸の1つと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

海も重要な資源の1つであり、軸の1つとおっしゃってくださいました。

私も歴史や文化、とりわけ芦屋釜の存在は、本町の誇るべき資源であると考えております。

しかしながら、それぞれを個別の点として生かすのではなく、海、歴史、文化、景観、暮らしを一体の面として結びつけ、町全体を1つの物語空間として再構築していくことこそが、これからのまちづくりに求められているのではないのでしょうか。

例えば、芦屋釜の背景には、中世における港町としての公益の歴史があり、海と文化は本来切り離せない関係にあります。つまり、海か歴史かという選択ではなく、海が育んだ歴史。歴史が形づくった港町の風景、そうした重層的な価値を、面として編み上げていく視点が必要ではないかと考えております。

芦屋町としては、これらの資源を横断的に統合し、空間デザインや観光動線、ブランド戦略に

令和8年第1回定例会（長島毅議員一般質問）

まで落とし込む構想を持つ考えはあるのか、改めてお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

現時点では、本町のまちづくりの基本方向を明らかにする芦屋町総合振興計画に基づき、町の様々な取組を進めていることとしております。

このため、長島議員御提案の新たな構想を持つ予定はございません。

しかしながら、それぞれの点だけではなく、面で取り組んでいく視点は、重要と考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

では、要旨2に行きます。

芦屋町における建築物の色彩、道路景観、植栽、サイン計画などを含めた、統一的な空間デザインの現状についてです。

仮に海を軸とするのであれば、空間の思想が必要です。現在本町において、建築物、道路景観、植栽、公共サイン、これらを包括した、総合的な空間デザイン方針は存在するのでしょうか。個別事業の積み重ねでは、町の印象は形成されないと思いますし、方針の有無、位置づけについてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

本町におきましては、都市計画法に基づく地区計画により、必要に応じ、建物の外壁や屋根の色彩等に制限を設け、周辺環境との調和を図り、良好な景観形成を図っているところでございます。

また道路景観の形成におきましても、町の費用負担は生じましたが、県事業の芦屋橋の架け替え工事において、本町らしい意匠を凝らすため、デザイン性の高い欄干や照明器具等にグレードアップをしていただくなど、景観形成に努めてまいりました。

しかしながら、長島議員御質問の建築物の外壁や屋根の色彩、道路景観等を包括した総合的な空間デザイン方針等はないのが現状でございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

統一的空間デザイン方針はないとのことですが、一方で、地区計画で色彩制限をしている橋のデザインに配慮した、つまり景観配慮は、個別には行っているとのことですので、ないわけではないということに理解しております。

次にいきます。

要旨3です。ランドマーク的な存在である、町立の小中学校の現在の外観色彩についてお伺いいたします。

具体例になりますが、本町の3小学校及び中学校の外観は温かみのあるオレンジピンク系の色味で、一定の統一が図られている印象がありますが、あれは偶然なのでしょうか、それとも意図的な設計思想があったのか、お伺いしたいと思います。

児童生徒に安心感を与える色彩、心理的配慮なのか、公共施設としての統一意図なのか、また当時の整備計画に基づくものなのかなど、狙いについて聞いてみたいのですが、もし意図があったのであれば、それは既に統一的デザインの実践例と思いますが、この点について、お伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

小中学校の外壁の色につきましては、施設を所管する担当課が、意図的に同系色を用いてきたものでございます。小中学校の校舎につきましては、建設当初から、現在のオレンジ色を基調とした暖色系の色を採用していたわけではなく、施設の老朽化に伴う外壁補修工事の際に、現在の色が採用されております。

最初に現在の色になったのが芦屋中学校で、施工に当たり、事業者から幾つかの色が提案され、その中から、現在の色が採用されております。また当時、所管課として、小中学校の校舎の色を統一していきたいという意向もあり、小学校の外壁補修が必要となった際には、同系色としていくことが、所管課内部で意思統一されたと聞き及んでおります。

この結果、現在の小中学校の外壁の色に統一感が生まれたというのが経緯でございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

令和8年第1回定例会（長島毅議員一般質問）

ということは、学校ではできていることが、なぜ町全体では体系化されてこなかったのかという疑問が少々あるのですが、できない理由があるのか、またやる必要性を感じていなかったのか。お聞かせください。

○議長 辻本 一夫君

企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

小中学校の校舎の統一感が図られていることにつきましては、先ほど答弁させていただいたとおり、所管課の意向でございます。

また、他の公共施設におきましても、外壁改修や公共施設の新設の際に、公共施設の規模、周辺環境、立地場所等を配慮しつつ、決定している状況でございます。これまでの決定過程において、町全体での体系化、いわゆる統一的な基準を設けるというような議論が、庁舎内で深まっていないう現状を考えると、できないというよりは、やる必要がなかったものと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

必要性がなかったとのことですが、私は必要性を感じるため、次の質問をさせていただきます。要旨4です。

芦屋町はどんな町、どこを目指す町といった、海を軸とした町の色、個性ですね、町の色を決めていくべきではないかと考えますが、ランドデザインの策定についてです。

近年よく耳にされていると認識しておりますが、自治体のランドデザインとは、通常の総合計画や都市計画とは別に、2、30年先を見据えた将来の姿、方向性を提示する構想的な計画です。まちづくり、地域資源活用、人口減少対策、都市機能配置などの大枠を描き、実際のまちづくりや、施策立案の基礎となり、県内でいいますと、みやこ町は、町の将来を描く、まちづくりランドデザインを策定、実行している自治体です。

これは上位計画とは別に、人口減少、少子高齢化、地域の変化といった課題を長期的に捉え、町全体の方向性を示す全体構想、ランドデザインとしての計画です。

ここで芦屋町の、これは景観に関するデザインの提案なんですけど、海を基調とした色彩コンセプト、建物高さの基本方針、海への動線の意識的な整理、港周辺の景観形成指針、植栽テーマの整理、公共ゲートサインの統一など、これに関しては、規制の強化ではなく、芦屋町の将来像を、全体で共有するイメージ図です。

町のイメージ、方向性が明確になれば、今なかなか成立しない、民間企業の投資も迷わないの

令和8年第1回定例会（長島毅議員一般質問）

ではないでしょうか。移住者も、移住に興味のある人たちも、町の個性を感じます。観光客も芦屋町らしさをもっと体感する、選ばれる町を目指し、海を生かすとは、空間を設計することなのではないでしょうか。

デザイン策定の必要性について、町の見解を伺います。

○議長 辻本 一夫君

企画政策課長。

○企画政策課長 本郷 宣昭君

今回の御提案は、景観に関するグランドデザインということで回答させていただきますが、町の景観は、地域の文化や歴史、自然環境を反映するものであり、地域住民の生活環境や、観光等にも大きく影響を与える重要な要素であると考えております。

このため、無秩序な開発の抑制、自然環境や歴史的景観の保全などにより、地域の魅力維持や創出を図るため、景観に関するグランドデザインを作成することは、良好かつ統一感のある景観形成につながる可能性もあるものと考えております。

一方で、グランドデザインの作成は少なからず、景観規制につながるものでございます。規制により、自由度の低下や、建築コストの増加、届出審査や事前協議による事業者負担の増加など、住民の皆様や事業者の方々が、不利益を被る可能性もあり、規制への反発も考えられるものでございます。

景観は、住民生活や民間の建築行為、土地利用に直接的な影響を及ぼすものでございますので、グランドデザインの策定にあたっては、幅広い住民意見の聴取や合意形成のプロセスが不可欠と考えております。

また、本町の規模や、現在の開発動向を踏まえますと、既存の都市計画関連計画の枠組みの中で、一定の景観配慮は可能であると考えております。

このため、現時点では、グランドデザインは必ずしも必要ではなく、既存の都市計画関連計画の適切な運用と、個別案件ごとの丁寧な対応により、良好な景観形成を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

ありがとうございます。様々な計画の名称も、今お聞きしました。

私は、本町が将来像を描くに当たり、最も重要な前提は、全部やろうとしないことであると考えております。人口減少、少子高齢化の進行、財政の制約、公共施設の更新問題という様々な問

題点を抱えておられると思います。

つまり、人、お金、時間は有限であります。現状は、海も観光も子育ても、福祉も移住も産業も全てを同時に強く推進されているように感じています。本当にありがたいことではありますが、一方では、あれもこれもと業務過多にもみえます。

限られた予算を多方面に分散すれば、小さな改善は起きるでしょうが、町の印象を変えるほどの変化は生まれないのではないのでしょうか。

現在の芦屋町は、どうでしょう。何の町かと問われて、即答できる状態にあるのか、疑問です。海の町、ボートレースの町、芦屋釜など歴史ある町。しかし、それらが1つの軸で統合されていない。だから、何となく印象が弱い気がしております。

これでは、交通アクセスに優れ、かつ生活しやすい資源が揃っている近隣他町に負けてしまいます。ボートレース事業の恩恵は重々承知しておりますが、それだけでは選ばれる町になれるのでしょうか。

では本町の軸は何か。先ほどから言っておりますが、私は明確だと考えます。それはやはり海なのではないのでしょうか。玄界灘に面し、芦屋港を有し、マリンレジャーの可能性があり、歴史的にも、海とともに歩んできた芦屋町。

しかし現在、景観は統一されていない。港の位置づけが曖昧、動線設計も整理されていない。町全体が海の町として設計されておられません。これが現実ではないのでしょうか。海をイメージさせる建物も、歴史的建造物もあまり見られません。グランドデザインとは、政策を並べるのではなく、海を軸に再設計すると決めるなら、公共施設の配置や、景観色彩も観光動線も、全て海基軸で再構成する、それが本当の設計につながるのではないかと考えております。

成功自治体は、1点突破です。飛び抜けた施策です。例えば、糸島市、海とライフスタイルを明確な軸に捉え、ブランドを確立しております。また、南小国町の黒川温泉。今では、相当有名な観光地ですが、1つの温泉街という世界感を徹底し、統一感を作り上げ、10年の歳月をかけて今の形を作り上げております。さらに唐津市。歴史と海を結びつけ、港と城下町のイメージを明確にしております。

いずれも、あれもこれもではありません。何か1つ軸を決めた町です。1点に集中したから、町のブランドが生まれ、移住者もどんどん増えたといえるのではないのでしょうか。

そこで貝掛町長にお尋ねします。芦屋町が今後、将来像を描くのであれば、最優先順位は何か、これを明確に示すことはできないのでしょうか。海を生かしたまちづくりを掲げるのであれば、空間の方向性を定めることは、これからの研究課題ではなく、前提条件だと思います。

今後10年、20年を見据え、グランドデザイン方針の整理を開始する意思があるのか。

本日、少々私の思いを長々としゃべりすぎてはしまいましたが、最後に町長の明確な答弁を求

めたいと思います。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 貝掛 俊之君

明確な答弁ということではありますが、長島議員がおっしゃっているのは、景観のグランドデザインということであると認識しておりますが、私としましては、みやこ町等が行っている、都市計画としてのグランドデザインが、優先ではないかと考えるわけです。

海を基軸というよりは、私はこの今、住んでいる方を軸にして、これから10年20年ですね、この庁舎も老朽化するわけでございます。小中学校も、今後統廃合等考えられます。

そういった中で、この庁舎をどこに移すのか、あるいはその庁舎の横に図書館、あるいは公民館施設を持ってくるのか、あるいは観光協会、商工会、一極集中するのか。その場合に、どの場所に移すのか。そういった、町民目線になって、本当に町民の利便性が向上する、ハード的なグランドデザイン、これをまず、第一に考えていきたい。

それに付随して、この海を生かしたまちづくりというものが、ついてくるのではないかと考えております。

本当に、長島議員もいろんな、斬新な御意見をいただいて、本当に頭が下がるばかりであります。この長島議員の御意見を、本当に参考にしたいと考えております。本当にあまり残念がらないでくださいね。

芦屋町のレジャー港化、この推進におきましては、この海を生かしたまちづくりということで、レジャー港化においては、海らしい景観を意識しながら、進めてまいりたいと考えております。

このあたりでよろしいですかね。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

そうですね。前向きというか、御答弁ありがとうございます。

先ほど町長が、海は重要な資源とおっしゃってくれましたし、レジャー港をまた変えてくれるという言葉をおっしゃってくれて、そこは私も全く同じ方向を見ております。これは対立ではなく、むしろ同じ山を別の上り口から上っているという感覚です。

ありがとうございます。また最近、町長自身も各所で、このグランドデザインというワードはよくお聞きになっていることと思いますので、今後も前向きに検討していただければと思っております。

令和8年第1回定例会（長島毅議員一般質問）

では最後の最後に、中西副町長。

長年にわたり、本町行政の中枢を担われ、心より敬意を表します。副町長はこれまで総合振興計画の策定、各種事業、そして行政組織全体の調整役として、芦屋町の方向性を、内部からずっと見続けてこられました。

そこで退任を前に、あえて個人としてのお考えをお聞きしたいと思います。芦屋町は今後10年、20年を見据えたとき、町の理念など、空間形成の軸として、より明確に整理していく必要性を感じたことはなかったでしょうか。

また、もし何か助言を残すとすれば、芦屋町の将来像を描く上で、何を大切にしたいとお考えになっておりますか。中西副町長の率直なお考えを最後にお聞かせいただければと思います。

○議長 辻本 一夫君

副町長。

○副町長 中西 新吾君

長島議員から提案されたことに限らず、何事においても、必要なことなのか、必要ではないのか。また、様々な課題がございますので、よくよく考えて、議論することで、進めていくことが大事であると思っております。

抽象的な答えになりましたが、最後の質問、ありがとうございました。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 1番 長島 毅君

中西副町長、おそらく行政人生の、最後の御答弁ありがとうございます。

今後とも、一芦屋の町民として、芦屋町の海と歴史を見守っていただければと思います。長い長い間、本当にお疲れ様でした。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。